

地区防災計画^{導入版}をつくってみましょう！

【次 第】

1. 開会
2. あいさつ
3. 地区防災計画のたたき台と本日の検討作業について
 - ①作業方法の説明
 - ②各自主防災組織で作成
 - ③発表
4. 閉会

3. 地区防災計画のたたき台と 本日の検討作業について

3. 地区防災計画と導入版について

(1) 地区防災計画について

(1) 地区防災計画の第一歩・ステップ1

地区防災計画の4つの誤解とホント

■ **地区防災計画は行政が行うことではありません。**

「行政から住民へ」と防災の担い手の幅を広げ、小さなことでも良いので、**住民主体**で何かにとりくむこと、それが地区防災計画です。行政はその手助け役です。

■ **地区防災計画は計画書を作ることではありません。**

計画書やマニュアルなど書類を作ることが目的ではなく、住民の視点、地区の特徴を活かした**活動を実際**に進めることが地区防災計画です。

■ **地区防災計画はどの地区でも一緒ではありません。**

「お隣では津波避難訓練をしているからうちでも…」ではなく、自分の地区の特徴を生かして、自分の地区にしかない「**オンリーワン**」の活動を手作りで！

■ **地区防災計画は一度きりで終わりではありません。**

地区防災計画とは、一度何かを実施し終わりではなく、「計画→実施→ふりかえり」を繰り返して、改善を重ねながら**長期間続けていく**ものです。

※令和4年度自主防災組織研修会・杉山先生（現九州大学准教授）講演資料より

3. 地区防災計画のたたき台と本日の検討作業について

(1) 地区防災計画について

■構成の例

これまでに
作成

0. はじめに

- ・ 計画の目的
- ・ 基本的な考え方

1. 地区の特性

- ・ 対象とする区域
- ・ 地区の特性
- ・ 防災マップ

2. 活動体制

- ・ 本部
- ・ 班構成と活動内容

3. 災害時の活動

- ・ 本部と各班の活動
- ※水害時／震災時を分ける場合は明記

4. 平常時の活動

- ・ 各家庭で取り組むこと（自助）
- ・ 地区で協力し合って取り組むこと（共助）

5. 今後の活動に向けた課題と方向性

今から
考えていきます



8月逃げ地図作成会

逃げ地図づくり

- 逃げ地図は、目標避難地点までの時間を色鉛筆で塗り分ける手づくりの地図で、道路が色塗りされることで、直感的に、危険な場所と逃げる方向を理解することができます。
- 地域住民のみなさんが、避難する一人ひとりの立場に立ち、自分たちで作成する点が特徴です。
「いつ、どこに逃げると良いか」や「より早い安全なルート」が一目でわかるようになっています。
- 地図を見ながら参加者同士で話し合うことにより、地域課題の発見や地域間・世代間のリスク・コミュニケーション促進にも繋がります。
また、逃げ地図づくりで得た気づきを、その後の街づくりに活かしている地域もあります。



緊急避難場所（避難目標地点）から
3分ごとに緑、黄緑と色分けをしています。



3. 地区防災計画のたたき台と本日の検討作業について

(2) 今日の検討作業

考えておくといふことを
広くカバー

「地区防災計画」
作成の手引き

今日はこれを
使います

詳しくは
市のホームページを
ご覧ください

地区防災計画 **導入版** を
作ってみましょう！

●対象とする区域：

★それぞれの自主防災組織の範囲を、図または文章で書いてみてください。

〈例〉・〇〇自治会の区域

・〇〇町〇番～〇番

・複雑な場合は図だけでもOK！(下に図を貼っておきましょう)

●対象者

★実際には、まず町会・自治会に入っている方が中心になりますが、入っていない方も含めた全ての方に広げていくことを目指して、「(町)会・自治会の関係者、事業者など町会内にいるすべての人」としてください。



令和 年 月

“**第一歩**”の
きっかけに！

【参考】災害時・平常時の活動から今後の活動（課題）を考えるポイント（地震・水害）

★災害時・平常時の活動から今後の活動課題を考える例です。地震発生の場合を基本に作成しておりますが、水害にも重複する内容があります。これを参考に、災害時に必要となる活動から、現状何が課題で、平常時から何を準備し、考えておくのがよいかとまとめておきましょう。担当（者）は現在の体制に沿って配置を見直し、体制が決まっていらない場合は、話し合って役割を決めてみてください。なお、あくまで例のため、これ以外にも必要な活動を考えてみてください。

①【地震】発生直後から数時間

川南町 (必要になる活動)	問い	状況	今後の活動（課題）	川南町（町）	水害時の課題
被害・被害状況など情報 の収集、共有、伝達	情報を収集・共有・伝達する方法、内容を決めていますか？	決めていない	方法（LINEなど）や内容を考え、連絡体制を決めておく。	全員（町民・情報連絡所 が中心）	
	電話が通らない（電話・メール・SNSがつかない）場合 の連絡手段は決めていますか？	決めていない	公民館など場所を決めて集合し、情報を集約する ようにする。	全員（町民・情報連絡所 が中心）	
避難所・避難場所	発生した火災は消火器などで消火できる入居者ですか？	できる (初期対応可能)	同時刻に連絡する担当者を決めておく。 日頃から訓練を通して消火器の取扱い、点検、 使用方法を習熟する。	消火・救護班	

導入版

地区防災計画

●対象とする区域：

●対象者：

令和 年 月 第 版

団体名：

1. 地区の概要

(1) 地区の特性

令和〇年〇月〇日現在

①自主防災組織の区域の状況

加入している世帯数

おおよそで結構です

・世帯数： 世帯

・人口： 約 人

・支援が必要な人： 約 人

・一時的に身の安全を確保する場所（指定緊急避難場所）

地震	水害
ハザードマップ15ページから探してください	

・自宅では生活できなくなった人同士が共同で生活する場所（指定避難所）

地震	水害
ハザードマップ15ページから探してください	

・町会・自治会の土地の高さ（標高）は 約 m

・町会・自治会内に狭い道路（道幅4mに満たない道路）が、 ある ・ ない

インターネットで「地理院地図」を検索

⇒「地理院地図 / GSI Maps | 国土地理院」を開くと画面右下にあります

ハザードマップ34～35ページから探してください

【地震】今後30年以内に70%の確率で発生すると想定されている東京湾北部地震において、当地区の震度は 6弱 ・ 6強 全壊率は %以上 %未満、液状化の可能性は 高い ・ やや高い ・ 低い ・ 極めて低い が予想されます。 ハザードマップ4～5ページから探してください

【水害】氾濫した場合に最も浸水範囲が広い、利根川が氾濫した場合において、当地区の浸水深さは 市、浸水継続時間は 時間（ 日間）が予想されます。

・過去に発生した災害と被害

いつ、どのような災害が、地区のどこで起こったのか書いてください。

(例) ・令和〇年の集中豪雨で、〇〇町〇番地付近で水があふれた。

・〇〇地震の時に、食器棚が倒れた家があった。

2. 備蓄品リスト等

(1) 備蓄品リスト

担当班	担当者	品名	数量	保管場所	更新予定	備考
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	

★既にリストがあれば、それを貼り込んでください。

★期限の確認が必要とお考えの場合でも、ひとまず現在の内容で書き込んでみましょう。

					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	

(2) 倉庫等のカギの管理

施設	正	副
備蓄倉庫		
集会所	★既にリストがあれば、それを貼り込んでください。	
指定避難所・門		
指定避難所・体育館		

3. 活動体制

★既に体制図があれば、それを貼り込んでください。

★見直しが必要とお考えの場合でも、ひとまず現在の体制を書き込んでみましょう。

【例】



【本部】〈設置場所〉 震災時：〇〇公民館 水害時：〇〇〇学校

本部長：町会長・自治会長

本部員：

本部員：

氏名

氏名

氏名

住所

住所

住所

電話

電話

電話

副本部長：副会長

氏名

氏名

住所

住所

電話

電話

電話

総務・情報
連絡班

班長：_____
班員：_____

消火・救護班

班長：_____
班員：_____

要配慮者
支援班

班長：_____
班員：_____

物資・
避難所班

班長：_____
班員：_____

おおむね作成済

4. 平常時・災害時の活動

(例) 地震・水害共通 班体制と活動内容

★班体制と活動内容の例です。現在の班体制に合った形にしてみてください。

役職・班	平常時の活動内容	災害時の活動内容
全員共通	・班編成 ・連絡体制の構築 ・訓練の計画、実施 ・地区の特性、想定災害の把握 ・危険箇所などの確認・周知 ・物資及び資機材の種類・数量、保管場所の把握 ・個人備蓄などの啓発活動 ・気象情報の収集	・連絡体制の確認 ・安否確認
本部	・各班の必要人数、責任者及び担当の振り分け ・会長の補佐、代理の振り分け ・指定避難所や市との連絡方法の確認 ・近隣の団体と調整 ・自主防災組織班構成表の作成	・情報収集（避難者の把握など） ・市や関係団体との連絡 ・本部の設置、運営 ・全体の指揮 ・会長の補佐、代理 ・各班の統括（班員の連繫、班の再編など） ・避難行動要支援者名簿、安否確認表の管理 ・指定避難所開設運営（指定避難所の確保、物資の確保、トイレの確保など） ・ライフライン（電気、ガス及び水道）やトイレの利用可否確認 ・災害時トイレの設置 ・給食・給水 ・物資の需要の把握 ・避難所内の巡回 ・ごみ出し方法のルール化
班務・情報連絡班	・安否確認表の作成（要配慮者支援班と協力） ・情報収集、共有、伝達方法など連絡体制の検討 ・広報活動方法の検討	・情報収集（避難者の把握など） ・市や関係団体との連絡 ・本部の設置、運営 ・全体の指揮 ・会長の補佐、代理 ・各班の統括（班員の連繫、班の再編など） ・避難行動要支援者名簿、安否確認表の管理 ・指定避難所開設運営（指定避難所の確保、物資の確保、トイレの確保など） ・ライフライン（電気、ガス及び水道）やトイレの利用可否確認 ・災害時トイレの設置 ・給食・給水 ・物資の需要の把握 ・避難所内の巡回 ・ごみ出し方法のルール化
消火・救護班	・物資、資機材の調達・管理・運搬（物資・避難所班と協力） ・資機材の点検、使用方法の習得 ・避難時の防火、防犯対策の検討 ・消防署への連絡担当者との検討 ・避難誘導方法の検討（要配慮者支援班と協力）	・避難誘導（要配慮者支援班と協力） ・初期消火活動 ・消防署へ連絡 ・要救出者の確認、救出 ・資機材の確保 ・避難者の救護活動 ・避難行動要支援者の状況の把握、支援（要配慮者支援班と協力） ・在宅避難者の把握、生活支援（要配慮者支援班と協力） ・物資の運搬（物資・避難所班と協力） ・町会内の巡回などの広報（ブレイカーの活用、危険箇所の立ち入り禁止などの措置）

要配慮者支援班	・安否確認表の作成（班務・情報連絡班と協力） ・避難行動要支援者の把握（名簿作成・場所の確認）及び避難誘導方法の検討	・避難誘導、避難行動要支援者への避難の意思確認（消火・救護班と協力） ・安否確認（班務・情報連絡班へ報告） ・避難行動要支援者の状況の把握、支援 ・在宅避難者の把握、生活支援
物資・避難所班	・物資、資機材の調達・管理・運搬（消火・救護班と協力） ・資機材の点検、使用方法の習得 ・指定緊急避難場所、指定避難所の確保 ・災害時のトイレ対策検討 ・ごみ出しルールの検討 ・看替え場所など女性への配慮の検討	・物資の確保・運搬・配分 ・炊き出しで使用する食料・燃料確保 ・指定避難所開設運営 ・ライフライン（電気、ガス及び水道）やトイレの利用可否確認 ・災害時トイレの設置 ・給食・給水 ・物資の需要の把握 ・避難所内の巡回 ・ごみ出し方法のルール化

この後、作成してみましよう！

■時間経過にともなう活動のイメージ

【地震の場合】記載例

★時間経過にともなう活動の例です。合体させたり分けたりして、現在の班体制に合った形にしてみてください。

役職・班	発災直後～数時間	発災当日～3日程	3日～1週間程度	1週間以降
本部	○情報収集（避難者の把握など） ○本部の設置・運営 ○全体の指揮 ○各班の統括（班員の差配、班の再編など） ○避難行動要支援者名簿・安否確認票の準備 ○市や関係団体との連絡 ○指定避難所開設運営の協力を指示			
総務・情報班	○被害・避難状況など情報の収集、共有、伝達（各班の情報を本部へ報告） ○広報活動			
消火・救護班	○避難誘導 ○初期消火活動（消火活動人員の割振り、活動指示含む） ○消防署への連絡 ○要救出者の確認（救出人員の割振り・救出指示、搬送人員の割振り含む） ○資機材の確保	○経産者の救護活動 ○避難行動要支援者の状況の把握、支援 ○在宅避難者の把握		
要配慮者支援班	○避難誘導 ○安否確認	○避難行動要支援者の状況の把握、支援 ○在宅避難者の把握	○在宅避難者の生活支援	
物資・避難所班		○物資の確保・運搬・配分 ○炊き出しで使用する食料・燃料の確保 ○指定避難所開設運営 ○ライフラインやトイレの利用可否確認 ○災害時トイレの設置 ○給食・給水 ○物資の需要の把握 ○避難所内の巡回 ○ごみ出し方法のルール化		

【水害の場合】記載例

★時間経過にともなう活動の例です。合体させたり分けたりして、現在の班体制に合った形にしてみてください。

避難レベル	1	2	3	4	5
気象庁の情報	早期注意情報 (河川の氾濫性)	大雨注意報 洪水注意報	大雨警報 洪水警報		大雨特別警報
避難情報 (市が発令)	市からの避難情報は 状況に応じて出します	避難準備情報	避難指示	避難指示	避難指示
観測所の水位		氾濫注意水位	避難警戒水位	避難危険水位	
役職・班					
全員共通	○気象や発災などに関する気象情報の収集 ○避難の準備 ○連絡体制の確認	○安否確認 ○在宅避難、垂直避難など注意の呼びかけ ○避難所開設の判断（市）			
本部		○避難行動要支援者名簿・安否確認票の準備 ○市や関係団体との連絡 ○本部の設置（判断）・運営 ○全体の指揮 ○避難所開設運営の協力・指示			
要配慮者支援班		○避難行動要支援者の避難準備の連絡（声かけ）、避難の意思確認 ○避難行動要支援者の避難支援 ○在宅避難者の把握			
物資・避難所班		○物資の確保	○避難所開設運営		○ごみ出し方法のルール化

この後、作成してみましょう！

●班構成がオリジナルの場合

- 班構成を反映したフォーマットを用意しました。

- 「地区防災計画 **導入版** を作ってみましょう！」の拡大版をみて、あてはまる平常時・災害時の活動内容を考えてみてください。

4. 平常時・災害時の活動

役職・班	平常時の活動内容	災害時の活動内容
全員共通	- 班構成 - 連絡体制の構築 - 訓練の計画、実施 - 地区の特性、想定災害の把握 - 危険箇所などの確認・周知 - 物資及び資機材の種類・数量・保管場所の把握 - 個人備蓄などの啓発活動 - 気象情報の収集	- 連絡体制 - 安否確認
自主防災本部	- 各班の必要人数、責任者及び担当の振り分け - 会長の補佐、代理の振り分け - 指定避難所や市との連絡方法の確認 - 近隣の団体と調整 - 自主防災組織班構成表の作成	- 情報収集 - 市や関係団体との連絡 - 自主防災本部の運営 - 会長の補佐、代理の振り分け - 各班の連絡調整 - 避難行動要支援者の状況の把握、支援 - 指定避難所や市との連絡方法
給食・給水班		
施設・備品管理班		
救出・救護班		
情報班		
避難・誘導班		
ご近所見守り班		

4. 平常時・災害時の活動

〈例〉地震・水害共通 班体制と活動内容

★班体制と活動内容の例です。現在の班体制に合った形にしてみてください。

役職・班	平常時の活動内容	災害時の活動内容
全員共通	- 班構成 - 連絡体制の構築 - 訓練の計画、実施 - 地区の特性、想定災害の把握 - 危険箇所などの確認・周知 - 物資及び資機材の種類・数量・保管場所の把握 - 個人備蓄などの啓発活動 - 気象情報の収集	- 連絡体制の確認 - 安否確認
自主防災本部	- 各班の必要人数、責任者及び担当の振り分け - 会長の補佐、代理の振り分け - 指定避難所や市との連絡方法の確認	- 情報収集（避難者の把握など） - 市や関係団体との連絡 - 自主防災本部の設置、運営 - 全体の調整
給食・給水班		
施設・備品管理班		
救出・救護班		
情報班	- 安否確認票の作成（要配慮者支援班と協力） - 情報収集、共有、伝達方法など連絡体制の検討 - 広報活動方法の検討	- 被害・避難状況など情報の収集、共有、伝達（各班の情報を自主防災本部へ報告） - 広報活動
避難・誘導班	- 物資、資機材の調達・管理、運搬（物資、避難所等と協力） - 資機材の点検、使用方法の習得 - 避難時の防火、防犯対策の検討 - 消防署への連絡担当者との検討 - 避難方法の検討（要配慮者支援班と協力）	- 避難誘導（要配慮者支援班と協力） - 初期消火活動 - 消防署へ連絡 - 要配慮者の確認、救出 - 資機材の確保 - 避難者の啓発活動 - 避難行動要支援者の状況の把握、支援（要配慮者支援班と協力） - 在宅避難者の把握、生活支援（要配慮者支援班と協力） - 物資の運搬（物資・資機材班と協力） - 町会内の巡回などの広報（ブレイカーの巡回、危険箇所の立入り禁止などの措置）

「地区防災計画 **導入版** を作ってみましょう！」の拡大版

はさみで切り取って、フォーマットに貼ってください。

●班構成が「地区防災計画 導入版」を作ってみましょう！」にある班からなる場合

- 活動内容も「地区防災計画 導入版」を作ってみましょう！」の同じ名称の班の内容を入れてあります。
- 足りない活動が無いのか、確認してみてください。

役割・班	平常時の活動内容	災害時の活動内容
全員共通	・班編成 ・連絡体制の構築 ・訓練の計画、実施 ・地区の特性、想定災害の把握 ・危険箇所などの確認・周知 ・物資及び資機材の種類・数量・保管場所の把握 ・個人備蓄などの啓発活動 ・気象情報の収集	・連絡体制の確認 ・安否確認
自主防災本部	・各班の必要人数、責任者及び担当の振り分け ・会長の補佐、代理の振り分け ・指定避難所や市との連絡方法の確認 ・近隣の団体と調整 ・自主防災組織班編成表の作成	・情報収集（避難者の把握など） ・市や関係団体との連絡 ・自主防災本部の設置、運営 ・全体の指揮 ・会長の補佐、代理 ・各班の統括（班員の選配、班の再編など） ・避難行動要支援者名簿、安否確認書の準備 ・指定避難所開設運営の協力を指示
情報班	・情報の収集・共有・伝達 ・ニュースで防災情報を発信 ・近隣の他団体との事前調整 ・全体調整 ・当面の取組の検討	・各班災害状況の把握、避難及び安否確認 ・組、班内の被災状況、避難状況を把握等を調査し、班ごと徒歩にて公民館対策本部に報告する。
消火班	・器具点検、防災広報 ・消火器等による初期消火 ・資機材、技術者との連携検討	・初期消火活動 ・組、班内の被災状況、避難状況を把握等を調査し、班ごと徒歩にて公民館対策本部に報告する。
救出救護班	・資機材調達・整備 ・ごみ処理ルールを検討 ・災害時のトイレの対策検討	・各班長（副）又は専門委員は、組、班の被災状況に応じ、救出・救護状況等を調査し、班ごと徒歩にて公民館対策本部（情報班長）に報告する。
避難誘導班	・避難路、指定緊急避難場所、指定避難所などの確認 ・要配慮者の把握 ・危険箇所などの確認・周知 ・避難所との連絡体制の検討	・消火班長（副）又は専門委員は、組、班の被災状況に応じ、避難誘導（避難所含む）の開始必要性を調査し、班ごと徒歩にて公民館対策本部（情報班長）に報告する。
給食給水班	・器具点検 ・個人備蓄などの啓発活動	・各班長（副）又は専門委員は、組、班の被災状況に応じ、給食・給水状況等の必要性を調査し、班ごと徒歩にて公民館対策本部（情報班長）に報告する。

●未作成の場合

- 「地区防災計画 **導入版** を作ってみましょう！」の活動を参考に、必要な班と活動を考えてみて下さい。

役職・班	平常時の活動内容	災害時の活動内容
全員共通	・班編成 ・連絡体制の構築 ・訓練の計画、実施 ・地区の特性、想定災害の把握 ・危険箇所などの確認・周知 ・物資及び資機材の種類・数量・保管場所の把握 ・個人備蓄などの啓発活動 ・気象情報の収集	・連絡体制の確認 ・安否確認
自主防災本部	・各班の必要人数、責任者及び担当の振り分け ・会長の補佐、代理の振り分け ・指定避難所や市との連絡方法の確認	・情報収集（避難者の把握など） ・市や関係団体との連絡 ・自主防災本部の設置、運営 ・全体の指揮 ・会長の補佐、代理 ・各班の統括（班員の選配、班の再編）
情報班	・近隣の他団体との事前調整 ・全体調整 ・当面の取組の検討	・組、班内の被災状況、避難状況を把握等を調査し、班ごと徒歩にて公民館対策本部に報告する。
消火班	・器具点検、防災広報 ・消火器等による初期消火 ・資機材、技術者との連携検討	・初期消火活動 ・組、班内の被災状況、避難状況を把握等を調査し、班ごと徒歩にて公民館対策本部に報告する。
救出救護班	・資機材調達・整備 ・ごみ処理ルール検討 ・災害時のトイレの対策検討	・各班長（副）又は専門委員は、組、班の被災状況に応じ、救出・救護状況等を調査し、班ごと徒歩にて公民館対策本部（情報班長）に報告する。
避難誘導班	・避難路、指定緊急避難場所、指定避難所などの確認 ・要配慮者の把握 ・危険箇所などの確認・周知 ・避難所との連絡体制の検討	・消火班長（副）又は専門委員は、組、班の被災状況に応じ、避難誘導（避難所含む）の開始必要性を調査し、班ごと徒歩にて公民館対策本部（情報班長）に報告する。
給食給水班	・器具点検 ・個人備蓄などの啓発活動	・各班長（副）又は専門委員は、組、班の被災状況に応じ、給食・給水状況等の必要性を調査し、班ごと徒歩にて公民館対策本部（情報班長）に報告する。

「地区防災計画 **導入版** を作ってみましょう！」の拡大版

「5.今後の活動を決める」

17

●こちらの資料を参考に
今後の活動を考えてみ
てください。

●今年行った、防災訓練
などの成果や反省も参
考にしてください。

いろいろ挙げてみて、
何か一つでも
すぐに取り組んでみる
ことを決めてみよう！



【参考】災害時・平常時の活動から今後の活動（課題）を考えるポイント（地震・水害）

★災害時・平常時の活動から今後の活動課題を考える例です。地震発生の場合を基本に作成しておりますが、水害にも重複する内容があります。これを参考に、災害時に必要となる活動から、現状何が課題で、平常時から何を準備し、考えておくのがよいかまとめておきましょう。担当班（者）は現在の班体制に沿って配置を見直したり、体制が決まっていない場合は、話し合って役割を決めてみてください。なお、あくまで例のため、これ以外にも必要な活動を考えてみてください。

①【地震】発災直後から数時間

災害時 (必要になる活動)	問い	現況	今後の活動(課題) ※ページへ	担当班(者)	水害時の検討
被害・避難状況など情報 の収集・共有、伝達	情報を収集・共有・伝達する方法、内容を決めていますか？	決めていない	方法(LINEなど)や内容を考え、連絡体制を決めておく。	全員(総務・情報連絡班 が中心)	☐
	電波が通らない(電話・メール・SNSがつかない)場合 の連絡手段は決めていますか？	決めていない	公民館など場所を決めて集合し、情報を集約する ようにする。	全員(総務・情報連絡班 が中心)	☐
初期消火活動	発生した火災は消火器などで消火できる大きさですか？	できる (初期対応可能)	消防署に連絡する担当者を決めておく。 日頃から訓練を通じて消火器の設置場所、点検、 使用方法を習熟する。	消火・救護班	☐
		できない (消火困難)	消防署に連絡する担当者を決めておく。		
	環境のおそれのある物(建物、空き家、ブロック塀、瓦葺屋根) や道路の狭い道路などは把握していますか？	把握していない	まち歩きで確認したり、近所の方の話を聞いたり して把握できた場所を地図におとす。 また、ハザードマップを確認する。	災害時は消火・救護班、 要配慮者支援班が中心 平常時は全員	☐ 冠水しやすい場 所、間接、暗 渠、段差のある 箇所、夜間暗い 箇所の把握
	危険箇所を過らないよう対策をしていますか？	していない	避難所に避難する際に、危険箇所を過らず安全に 避難するための地図をつくり、会員に配布して啓 発する。	災害時は消火・救護班、 要配慮者支援班が中心 平常時は全員	☐
	要救出者の対応は決めていますか？	決めていない	要救出者の確認、救出指示をする人、人員の割り 振りを決めておく。	消火・救護班	☐
	倒壊した建物に埋もれているが、協力すれば救出できそうであ る。資機材(ジャッキなど)を使用できますか？	できない (資機材がない 又は使い方がわ からない)	訓練を通じて資機材を使用できる方を増やし、 使用方法を習得する。点検を定期的に行う。 救出用の資機材を調達する。 訓練を通じて資機材点検を実施し、使用方法を習 得する。		
救出活動					☐ 冠水した場合の 救出対策

4. 閉会

今後の進め方について

